

みんなのた場

サトル仲間

温故知新で魅力を発信 地域の活性化にひと役

河北まちづくり研究会「なつかしの町・飯野川」

河北まちづくり研究会

「なつかしの町・飯野川」(佐藤祐樹会長)は、食や歴史、人など古くから伝わる飯野川地区の魅力を研究・発信して人々の交流を促し、まちに活気を呼ぼうと活動しています。

設立は平成22年で、飯野川地区の商店主らがまちおこしを考えていた折に石巻専修大学経営学部の石原慎二教授の呼びかけがあり、約30人が集まりました。飯野川は土蔵など江戸時代の面影を残す景観や独自の食文化があり、それらをテーマに据えて動

き始めました。

現地調査や勉強会、展示イベントなどをスタートさせましたが、1年も経たないうちに東日本震災が起き、「なつかしの町」が大きく姿を変えました。

しかし、残された地域資源を活用し、さらに新たな魅力を探していこうと活動を続けました。平成23年には飯野川の食文化の一つである「サバだしラーメン」を使った「サバだしラーメン」を石巻専修大学の学生と商店街グループとして開発しました。昨年はカップラーメンとなって全国で発売され、そ

の味にひかれて飯野川を訪れる人も増えています。

これに続き地域の味「ずるびきあんかけ」も平成26年に商品化しました。現在はこれらの商店街グループに注力しながら、散策マップの作成もしています。今後は飯野川の町や物、人々について調べ、その成り立ちをまとめた本「飯野川ものがたり」の発行や、商店街名物のお菓子のアピールなどさまざまな展開を考えています。

佐藤会長は「この地域に長く住んでいても初めて知ることが多いです。飯野川は旧河北町の中心街で、もともとにぎわいのあったまち。今後、人が集まるようにするためには、震災後の今が重要なときだと考えます」と、ふるさとへの思いを語っていました。研究会では地域内外から会員を募集しています。佐藤会長(☎621-2201)までお問い合わせください。



▲将来に残るまちをつくろうと活動する研究会メンバー



▲古民家での展示イベントで、なつかしの品に見入る来場者



健康生活と好奇心で生涯青年



わたなべ しろろう
渡邊 四郎さん 100歳
(石巻地区・中央三丁目)

渡邊四郎さんは大正4年3月30日に7人兄弟の四男として埼玉県旧秩父郡に生まれ、今年100歳を迎えました。

21歳から30歳まで海軍で兵役に就き、整備士として戦地で青春時代を過ごしました。勤務地はサイパン島やペリリュー島等、最前線といわれる基地10カ所です。

昭和22年からは、現在の自宅の場所に建っていた鉄工所に就職しました。婿に入る形で妻のつなこさん(90)と結婚。4代目として働き、70歳まで鉄工所を経営しました。

「ご長寿の秘訣をうかがうと、「自分でもよくわかりませんが、長女の裕子さんは「お酒を飲まず、たばこも吸わず、よく食べて規則正しく寝起きして、自分のことは全部自分でやっています」と感心し、「生涯青年」とたたえていました。

鉄工所を閉めてから30年来的の趣味となっているのが古文書の研究です。渡邊さんは「いくつになってもわからないものが出てくる。難しいから続けられるのじゃない」と衰えない好奇心をのぞかせていました。

祝詞を手にする渡邊さん。趣味は古文書の解読といます

第12回 「血管の老化(動脈硬化)」を防ぐには?

石巻市立病院 副院長 赤井健次郎



人は歳をとると全身に加齢による変化(老化現象)が現れ、ほとんどの人は顔を見ただけで大体20代、40代、60代とその年齢がわかります。人間の体の一部である動脈も歳を経るごとに変化を来します(老化します)。加齢性の変化である動脈硬化で問題なのはその変化が直接は目に見えず、実際の臓器障害を来すまでは自覚症状に乏しく気づかないこと、そして、かなりの個人差があることが挙げられます。個人差の原因には遺伝因子(先天的なもの)と環境因子(後天的なもの)の両方があります。生活習慣病の代表に挙げられる心筋梗塞・狭心症や脳梗塞は動脈硬化に起因する疾患の代表で、心筋梗塞・狭心症の発症は男では30代後半、女では閉経後が多いのですが、男は20歳前から動脈硬化が始まっています。実際に臓器障害を生じて自覚症状が明らかになってから動脈硬化の治療に取り組んでも少し遅かった(10年以上遅い?)こととなります。今の医学でも遺伝因子の治療はできませんが、環境因子の治療は可能です。高血圧症、糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、喫煙、肥満等に対する食事・生活習慣の改善と薬剤による治療を、臓器障害を来し自覚症状が明らかになる前に開始することがなにより大切です。心筋梗塞・狭心症やその後生じた慢性心不全、脳梗塞後遺症、慢性腎臓病等で生活の質が著しく低下してしまう前に…。

☆次回7月1日号は「運動をつづけるコツ」です。

◇投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとっておきの話をお寄せください。
テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課までにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを全て掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。
☎ 秘書広報課(内線4024) ☎986-8501(住所不要)Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題

雄勝地区



3月28日(土)
大浜 葉山神社

鎮守さまの 再建を期待

震災の津波で被害を受け、現在再建中の葉山神社で社殿の上棟記念奉祝祭が開かれました。鎌倉時代に創建された神社は地域の心のよりどころで、国指定重要無形文化財の雄勝法印神楽の本拠地にもなっています。奉祝祭には、約500人が集まり、上棟式の様子を見学したほか、神楽鑑賞や雄勝石での敷石制作等を楽しみました。社殿の落成は9月の予定です。

河北地区

3月29日(日)
長面浦

自慢のカキで 地域にぎわう



長面地区の番屋「長面浦 海人の家」内に憩いのスペース「はまなすカフェ」がオープンしました。これを祝う長面浦牡蠣まつりが開かれ、震災前に同地区で暮らしていた皆さんや県内外からの観光客等が大勢足を運びました。地元のカキを使った新メニューや焼きガキ、蒸しガキが無料で振る舞われ、長い行列ができるほどの人気ぶりでした。

桃生地区



3月1日(日)
桃生地区一円

地区で丸となって 火災予防!

春季火災予防運動防火パレードが行われました。市消防団桃生地区団をはじめ、桃生婦人防火クラブ、河北消防署桃生出張所の皆さんが消防車、積載車等の車両に乗り、2コースに分かれて桃生地区内を巡回し、火災予防を呼びかけました。

河南地区

3月22日(日)
遊楽館

10周年祝って 盛大に演奏



遊楽館の開館10周年を記念した「こもれびフォーラム・パイプオルガンの集い2015」が開かれました。電笛、篠笛等による雅楽やバイオリン、ピアノのクラシック音楽、石巻少年少女合唱隊の音楽劇等、盛りだくさんの内容となり、訪れた皆さんに楽しいひとときをプレゼントしました。

牡鹿地区



4月10日(金)
鮎川港

三陸沖鯨類捕獲 調査の出港式

日本鯨類研究所が実施する第2期北西太平洋鯨類捕獲調査の一環で、三陸沖鯨類捕獲調査が4月10日から始まり、鮎川で出港式が開かれました。鯨の捕食が漁業に及ぼす影響を調べることを目的として、国の管理のもと毎年春は三陸沖、秋は釧路沖で実施しています。今年は地元船2隻を含む4隻が5月19日まで上限51頭のミンクジラを捕獲し、調査を行います。

北上地区

4月13日(月)
北上中学校

適正な自転車 利用を学習



1年生を対象にした交通安全教室が開かれました。河北警察署が、地域の子どもたちに交通安全の大切さや自転車の正しい乗り方を身に付けてもらおうと毎年、新学期のスタートに合わせて開催しています。生徒たちは、警察官から事故の起きやすい運転等について説明を受けたほか、実際に自転車で走行して両手運転と片手運転の違いを体験していました。

石巻地区



3月16日(月)
復興まちづくり
情報交流館中央館

国連防災世界会議 スタディツアー

仙台市で開かれた第3回国連世界防災会議(3月14日(土)~18日(水))の一環で、欧米諸国等から28人が石巻市を訪れました。日和山や津波避難ビル等を視察したほか、橋通りにある復興まちづくり情報交流館中央館では、震災当時の写真を見ながら海と川、運河に囲まれた石巻市の被害状況を学びました。参加者は市民生活の復旧、復興に特に関心を寄せていました。

石巻地区

4月5日(日)
ロマン海遊21前

新鮮な食材満載 ふれあい朝市開幕



開催を待ち望んだ大勢の皆さんが訪れた朝市には、地場産の新鮮な水産物や旬の果実、野菜等が並びました。また、石巻焼きそばの実演販売やワカメうどんも提供され、飲食コーナーでは朝食を楽しむ姿も見られました。ふれあい朝市は12月まで毎月第1、第3(8月のみ第1、2)日曜日の午前7時から開かれます。